

1 単元名 100年後まで守りたい — 私たちの地域に受け継がれる宝物 —

2 本単元の価値

次期学習指導要領に向けた「審議のまとめ」では、総合的な学習の時間の目標を以下のよう設定することが適当であると述べられている。

- 「探究的な見方・考え方」を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることをとおして、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
- ①探究的な学習の過程において、学習対象に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
 - ②実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
 - ③主体的・協働的・探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる。

次期学習指導要領では、各教科等において資質・能力を育成するための学習過程のあり方が検討されており、探究の過程が意識されている。総合的な学習の時間には、各教科等の「見方・考え方」を総合的・統合的に活用し、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、自己の在り方・生き方と関連付けて問い続けることに特質がある。

本単元の学習対象である「新潟万代太鼓」は、新潟市に伝わる郷土芸能で、創作和太鼓である。約50年前に「新潟祭りに新たな和太鼓を取り入れたい。地域が誇る芸能をつくりたい」という思いを受け、創始者の小泉光司先生が石川県片山津太鼓をモデルに作られたものである。以来、数多くの団体に受け継がれ、現在20を超える団体が、新潟まつりをはじめ、地域の神事、各種イベントで演奏をとおして、郷土芸能として継承、普及に取り組んでいる。

その団体の1つ、「万代太鼓華龍」代表の田村佑介さんは、新潟市内でプロの太鼓奏者として郷土芸能の普及に尽力されている。「100年続いて初めて伝統になる」という小泉先生の教えを引き継ぎ、地域の祭りでもっと万代太鼓が演奏されるように、そして太鼓をもっと身近に感じ、より多くの人が太鼓でつながるような地域に根ざした文化になってほしいという思いをもち、太鼓の演奏だけでなく、市内小学校や各種団体への指導も行っている。

しかし、普及の状況は十分とはいえない。万代太鼓の演奏を聞いたことがないという市民も多くいる。また、演奏を見たことがある人たちも、自分たちが万代太鼓の伝統を受け継ぐためにかかわっていこうという意識をもっている人は少ない。

本単元では、地域の郷土芸能である「万代太鼓」の魅力や、それを伝承する人々の思いを子どもに実感させ、「万代太鼓を未来に残していこう」という目標を立てさせる。そして、そのために自分たちができることを考えさせる。

このような「正解のない課題」について解決を図ることをとおして、思いつきではなく、根拠に基づいて課題を設定したり解決したりできる資質・能力を育むことをねらう。そのために、課題解決の武器となる「数値によるデータ分析」を授業に取り入れる。各教科で育まれた「見方・考え方」を働かせることが、資質・能力を発揮することにつながり、総合的な学習の時間の目標達成につながるからである。特に、算数科の「見方・考え方」を課題解決に働かせることで、多様な文脈の中で使えるようになる。その結果、地域で受け継がれてきた文化を未来に継承する担い手としての意識を高めていけることに、本単元の価値がある。

3 本題材で目指す姿

数値を基にした事実と自他の思いとを関連付けて、取り組むべき課題を設定する子ども

具体的には、「伝統を受け継ぎ未来につなげるために、万代太鼓の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい。調査結果から分かる問題と受け継いできた人たちや地域の人たちの気持ちを考えると〇〇（伝える相手）に□□という方法で伝えていくべきだ」と、数値データを根拠にして自分の取り組むべき課題を設定する姿。

4 本単元で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学習を通して獲得する学習対象に関する知識 ○問題状況の中から、課題を発見し、設定する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ○実社会や実生活の中から問いを見だし、自ら課題を立てる力 ○信頼性を高めるために、事実を比較したり関連付けたりして整理・分析する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度 ○課題の解決に向けて探究活動に協働的に取り組もうとする態度

5 指導の構想

前単元で、子どもは郷土菓子「笹団子」を学習対象に、その食文化を未来に受け継ぐための取組を考えてきた。地域の調査活動を経て問題を把握し、それを基に課題解決に取り組んだ。

本単元の導入前には、社会科の「地域に受け継がれる伝統行事」の学習で、新潟まつりとの関連で万代太鼓について調べさせる。また、音楽の「日本の楽器に親しもう」の学習で、実際に和太鼓の演奏を経験させる。

単元導入では、「万代太鼓」の演奏団体の1つ「華龍」の代表である田村祐介さんと出合わせ、太鼓を演奏する活動に繰り返し取り組ませる。子どもはその活動をとおして、太鼓をたたくことの楽しさと、技能を身に付ける。さらに、以下の内容について、専門家から話を聞かせる。

- ・約50年前に「新潟まつりのために和太鼓を取り入れたい。そして地域が誇る芸能をつくりたい」という地域の思いを受け、創始者の小泉光司先生が作ったものであること。
- ・小泉光司先生の思いを受け継いだ団体（現在23の団体）が、未来に受け継ぐために継承に取り組んでいること。
- ・楽譜はなく、曲と演奏の技能は、人から人へ直接、口頭や実演で受け継がれてきたこと。
- ・「100年続いて伝統になる」という思いから、たくさんの人に「万代太鼓」を知ってほしいし、演奏できるようになってほしいと願っていること。

伝承のために取り組んでいる専門家の思いや取組を聞いたり、体験を通して太鼓演奏の技能を身に付ける活動を通して、「もっと演奏したい」「もっと知りたい」「そして大切にしていきたい」という学習対象に対する愛着を高めている。

働き掛け1

伝統芸能に対する願いとそこに至っていない現状について専門家の話を聞かせ、これから学習していきたいことを問う。

学級集団共通の課題を設定させるための働き掛けである。

専門家から、学習対象である伝統芸能が未来まで受け継がれてほしいという願いと、その実現のために取り組んでいることを聞かせる。子どもは、これまでの共通体験を通して獲得した知識や伝統芸能に対する愛着と関連付けて、専門家の願いや取組に共感する。その後、専門家から、取組の成果と課題を聞かせる。具体的には、様々な行事で演奏する機会が増えた反面、まだ認知されていないことを実感していることや、太鼓の演奏者の高齢化、若い人たちに指導しても団体を離れると太鼓にかかわらなくなってしまうことなどを聞かせる。子どもは、普及十分進んでいない現状を知り、未来に受け継がれることに危機感をもつ。こうして、子どもは伝統文化が抱える問題を漠然ととらえる。**(総合①知識・技能)**

そこで、これから学習していきたいことを問う。子どもは、未来にあるべき姿と問題状況の差異を感じ、未来に受け継ぐために自分たちができることに取り組んでいきたいという思いをもつ。「万代太鼓を100年後まで残そう」という目標をたて、そのために「太鼓の魅力をたくさんの人に伝えていこう」という学級共通の課題を設定する**(総合③態度)**。

働き掛け2

太鼓の魅力を伝える相手を問い、判断するための方法を問う。

データ収集の必要性を高めるための働き掛けである。

学級共通の課題を設定した子どもに、万代太鼓の魅力を伝える相手を問う。子どもは、住んでいる場所や年齢層、性別など、様々な視点で伝える相手を思い浮かべる。しかし、その根拠はなく、「おそらく知らないであろう」という個人的な見解であったり、「町に出てとにかくたくさんの人に伝えたい」という思いで候補を挙げている状態であったりする。

そこで、「どうやって伝える相手を決めたらいいかな」と、判断する方法を問う。子どもは聞き取りやアンケートなどで調査して数値化することを考える**(算数科③態度)**。

その後、調査対象と、調査項目を決めさせる。子どもは共通体験によって獲得してきた伝統芸能の魅力**(総合①知識・技能)**を調査項目に決め、アンケートを作成する。その後、実際に調査を行わせる**(総合③態度)**。

質問	はい	いいえ
①万代太鼓を知っていますか。		
②おかしの万代太鼓をしていますか。		
③演奏を見たり聴いたりしたことはありますか。		
④なぜ作られ、演奏されている知っていますか。		
⑤地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思いませんか。		

働き掛け3

調査の結果を集計して提示し、伝える相手を問う。

調査結果を根拠にして、伝える相手を決めさせるための働き掛けである。

子どもが行った調査活動の結果を数値化し、まとめた表を提示する。子どもは表を見て、周囲

の人の大まかな傾向をつかむ。同時に、総数を表にまとめただけでは、どの人に伝えていくべきか判断できないので、視点を決めてデータを細かく分析して確かめたいという思いをもつ。そこで、どのように集計し直したらいいかを問う。子どもは自分が確かめたい目的に応じて、データを分けることを考える（算数科②思考力・判断力・表現力）。例えば、年代別の実態を確かめたいければ年齢別にいくつかのグループに集計し直すことを考え、地域別の実態を確かめたいければ、地域別にいくつかのグループに集計し直すことを考える。視点を明らかにさせたところで、分担して集計させる（算数科①知識・技能）。

その後、各集計結果を報告させ、改めて学級として伝える相手を問う。子どもは、分析して集計し直した複数のデータを関連付け、データを根拠に伝える相手を判断していく（総合②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け 4

目標に至っていない現状の要因を予想させ、目標達成のための方策とその理由を問う。

根拠をもって解決の方法を判断させるための働き掛けである。

調査結果を基にした数値目標を確認し、目標に至っていない現状の要因を問い、予想させる。子どもは、分析したデータの情報と調査活動時のかかわりの中で獲得した情報を関連付け、その要因を考える。

要因を明らかにしたところで、目標達成のための方法を問う。子どもは予想した要因を解消するための方法を考える。なるべく偏りのない多様な方法を引き出すための話し合いの仕方を問い、適切な思考ツールを選択させる。子どもは、ウェビングマップやコアマトリクスを用いて、グループで話し合うことを考える（協働性・ツール活用能力）。その後、各グループで話し合った方法を出し合わせ、自分が取り組むべきことを判断させる。子どもは、数値から分かる相手の事実と相手や専門家の思いとを関連付け、自分が取り組むべき方法を判断する（総合②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け 5

1回目の取組の結果を集計して数値化させ、これからの取組の内容と方法を問う。

課題を更新させるための働き掛けである。

1回目の取組の結果を数値にして提示する。子どもは1回目の取組で、目標数値に届かなかった項目に目を向け、そのための方法を改善することを考える。そこで、改善のためにこれまでの学習の何が役立つそうか問う。子どもは、これまでの学習で獲得した伝統芸能に関わる知識や専門家の取組を挙げる。

その後、2回目の活動で「何を」「どのように」伝えるのかを問う。子どもは、1回目の活動の結果から分かる事実と、これまでの学習で獲得した知識や専門家の思いをつなげ、自分が取り組む課題を更新する。具体的には、「数値から、演奏を見ても叩いてみたいと思うような人が少ないことが分かった。僕は、田村さんが言っていたように、太鼓を演奏したいと思う人を増やしたいので、もっと自分たちが練習して聞かせ、太鼓の魅力を伝えられるようにしてあげたい」という姿である。こうして、数値を基に事実と自他の思いとを関連付けて、取り組むべき課題を判断する子どもになる。

働き掛け 6

1回目と2回目の活動の結果の変容とその理由を考えさせ、これから課題を解決していくために取り組んでいきたいことを問う。

「万代太鼓」とのこれからのかかわり方を考えさせるための働き掛けである。

2回目の活動を行わせた後、その結果を集計させて数値化し、1回目の結果との変容を問う。子どもは1回目と2回目の結果を比較して、改善できた点と、さらに改善の必要な点に着目する。そこで、改善できた点について理由を考えさせる。子どもは自分たちの方法について有用感を得て、さらに取り組んでいこうと意欲を高める。次に、改善の必要な点についても理由を考えさせる。子どもは単発的な取組には改善に限界があることに気付き、今後も継続的に取り組み続ける必要性に気付く。

最後に、これから実生活の中で取り組んでいきたいことを問う。子どもは太鼓を演奏していきたいという単元導入時から持ち続けていた自分の思いと、魅力を発信してきた活動とおして実感した他者の思いとを関連させ、これからも万代太鼓を大切にしていけることを考える（総合③態度）。

6 指導計画 全30時間（90Q）

別紙「単元カード」参照

7 本時の構想<第1日目> (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 14/30時間目)

周囲の人々への調査活動の結果を分析することとおして、問題状況の事実を客観的にとらえ、その事実を根拠にして、解決のために働き掛ける対象を判断する。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け																																																				
<p>1 教師の集計結果をどのように分析するか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生や中学生、地域の大人、お年寄り、男女、古町以外に住んでいる人など、伝えたい相手はいるな人がいるな。 調査結果がどうなっているか、楽しみだな。 万代太鼓を見たことがある人は結構多いな。知っている人がいて、うれしいな。 周りの人は知らないことが多いな。 太鼓を叩いたことがある人は少ない。 <p>このまとめ方だと、だれに伝えたらいいかよく分からない。</p> <p>先生の表だと、全体のことは分かるけど、細かく、だれがどのくらい知っているのかは分からない。</p> <p>地域ごとに分けたらどうかな。★算数科③</p>	<p>※ 伝える相手の候補を掲示しておく。 (例) 若い人、お年寄り、祭りに行く人、古町の人、万代の人</p> <p>○発問「みんなが調査した結果を集計してきょうまでと残念だと思ふことはありますか」</p> <table border="1" data-bbox="869 577 1177 757"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①万代太鼓を知っていますか。</td> <td>128</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>②おかしの万代太鼓をしていますか。</td> <td>147</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>③演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。</td> <td>111</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>④なぜ作られ、演奏されている知っていますか。</td> <td>9</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>⑤地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。</td> <td>169</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>○発問「集計結果を見て、どこで、どのような人に伝えていけばいいと思いますか」【働き掛け3-①】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どのように集計したら、みんなが伝えたい相手をはっきりさせることができるかな。</p> </div>	質問	はい	いいえ	①万代太鼓を知っていますか。	128	44	②おかしの万代太鼓をしていますか。	147	25	③演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。	111	61	④なぜ作られ、演奏されている知っていますか。	9	163	⑤地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。	169	3																																		
質問	はい	いいえ																																																			
①万代太鼓を知っていますか。	128	44																																																			
②おかしの万代太鼓をしていますか。	147	25																																																			
③演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。	111	61																																																			
④なぜ作られ、演奏されている知っていますか。	9	163																																																			
⑤地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。	169	3																																																			
<p>2 視点を決めてグループごとに集計する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年齢別に集計するのなら、○歳～○歳までは□班のように担当を決めればいい★協働性 調査する人数をそろえないと、あとでうまく比べられなくなるよ。 おかしいぞ。項目ごと合計の人数がずれてるぞ。間違えないように数えよう。 分けて集計した人数を合わせたら、先生がまとめた数と合わない★算数科① 集計すると違いが出るところと、違いがないところがあるな。 男女に分けて集計し直した結果を見ると、違いはあまりないことが分かった。 やっぱり若い人に伝えるといいかな。 	<p>○発問「どのようにすれば、みんなで集計し直せるかな」【働き掛け3-②】</p> <p>○指示「確かめるためにグループごとに集計して、表にまとめましょう」</p> <p>※ 人数をそろえて集計することを提案する</p> <p>※ 例1 年代別</p> <table border="1" data-bbox="853 1176 1380 1288"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1万代太鼓を知っていますか。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2おかしの万代太鼓をしていますか。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4なぜ作られ、演奏されている知っていますか。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>例2 地域別</p> <table border="1" data-bbox="909 1332 1308 1444"> <thead> <tr> <th colspan="2">万代</th> <th colspan="2">万代以外</th> </tr> <tr> <th>質問</th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1万代太鼓を知っていますか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2おかしの万代太鼓をしていますか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4なぜ作られ、演奏されている知っていますか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	質問	はい	いいえ	1万代太鼓を知っていますか。			2おかしの万代太鼓をしていますか。			3演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。			4なぜ作られ、演奏されている知っていますか。			5地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。			万代		万代以外		質問	はい	いいえ	はい	いいえ	1万代太鼓を知っていますか。					2おかしの万代太鼓をしていますか。					3演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。					4なぜ作られ、演奏されている知っていますか。					5地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。				
質問	はい	いいえ																																																			
1万代太鼓を知っていますか。																																																					
2おかしの万代太鼓をしていますか。																																																					
3演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。																																																					
4なぜ作られ、演奏されている知っていますか。																																																					
5地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。																																																					
万代		万代以外																																																			
質問	はい	いいえ	はい	いいえ																																																	
1万代太鼓を知っていますか。																																																					
2おかしの万代太鼓をしていますか。																																																					
3演奏を見たり聴いたりしたことはありませんか。																																																					
4なぜ作られ、演奏されている知っていますか。																																																					
5地域にある万代太鼓を、未来に残していきたいと思えますか。																																																					
<p>3 各集計結果を紹介し合い、発信対象を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年齢別に分けて集計し直した結果を見ると、やっぱり若い人の方が知らない人が多い。小学生はほとんど知らないから附属小の小学生に伝えるといいと思う。 地域ごとに見てみると、万代の人を見たことがある人が多いから、万代の人以外に伝えたらいいと思う。★算数科② 未来に残すことを考えると、若い人に伝えたい方がいいと思う。田村さんが太鼓を演奏する若い人が減ってきて言っていたから、若い人に興味をもってもらえるのがいいと思う。 町の人には、実際に演奏を見てみたいって言っていた。古町や本町の人たちに、演奏を見せたらいいと思う。★総合①② 	<p>○指示「各グループの集計結果を紹介してください」</p> <p>※ グループでまとめたものは、教室の壁面に掲示する。</p> <p>○発問「それぞれの班の集計結果を見て、クラスとして、まず、だれに伝えていけばいいと思いますか」【働き掛け3-③】</p> <p>※ データを根拠にしている意見と、人の思いを根拠にしている意見を分けて板書する。</p>																																																				

(3) 評価

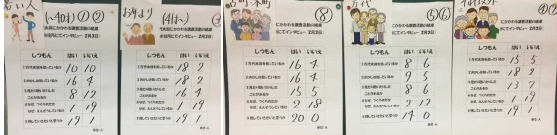
○ 集計結果のデータを根拠にして、伝える相手を判断することができたか、発言とワークシートの記述から判断する。

7 本時の構想<第2日目> (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 15/30時間目)

学級共通の課題を解決するために取り組む方法を考えることを通して、数値を基に周囲の人々の現状を考え、自分や専門家の思いとを関連付けて、普及のための具体的な方法を決めることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け
<p>1 取組の具体的な目標を考え、町の人々の現状を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 万代の人を知っていると思ったけど、意外と知らない。 住んでいる場所が違うかと思ったけど、そんなに違いはない。 年齢で分けると違いがはっきりするな。 若い人に伝えていくべきじゃないかな。だって、知っている人が少ないから。 それに、華龍のみなさんも若い人たちに、太鼓をたたいてほしいって言った。 太鼓を見る機会がないんじゃないかな。まつりとかにいく若い人たちが減っている。 まず興味をもってもらうことが大切。見たことがないから興味をもてない。 	<p>※ 昨日集計した結果を、提示する。</p>  <p>○発問「昨日の集計結果を見て、まず、だれに伝えていけばいいと思いますか」 【働き掛け③】</p> <p>○発問「なぜ、万代太鼓のことを知らない原因は何だと思いますか」 【働き掛け4-①】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どうやったら、〇〇の人たちに、万代太鼓の魅力を伝えることができるかな。</p> </div>
<p>2 グループごとに取組の方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんアイデアを出したいから、ウェビングマップのように使って話し合うとよさそう。 みんなで出したアイデアを、最後はまとめていききたいから、コアマトリクスのように使って話し合おう。★ツール活用能力 見たことがない人には、やっぱり太鼓の演奏をしてみせるといい。 僕たちがもっと演奏できるように練習して太鼓の演奏を見に来てもらえばいいんじゃないかな。 そのとき、実際に太鼓を叩いてみる体験とかしたらどうかな。 笹団子のように、ポスターとかにまとめて、伝えにいったらいいと思う。 太鼓のキャラクターを決めるのはどう？ キャラクター作りは、どこの項目を挙げる目的でやるのか分からない。 iPadで太鼓の演奏を録画して、それを見せると説明したらどう。★総合② 	<p>○発問「どのような方法で働きかけたら、目標が達成できるかな」 【働き掛け4-②】</p> <p>○指示「グループになって、ホワイトボードを使って方法を相談しましょう。」</p> <p>※補助発問「どのように、ホワイトボードを使って相談しますか」</p>
<p>3 各グループのアイデアを紹介し合い、発信の方法を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの方法のいいところをまとめたらいんじゃない。 発表会を開いて、伝えたい人たちを呼ぼう。そして、発表会を開いて、太鼓の演奏を聴いてもらいたい。 発表会を開くなら、そのときに、ポスターを配るなどして、歴史とか特徴も一緒に知らせたい。 町に出ていって、演奏すればいい。学校に呼ぶと、用事がある人とかはなかなか来られない人もいる。こちらから行った方が確実に、多くの人に伝わる。 受け継いできた人の思いも大切だから、田村さんたちに聞いてみよう。 教えてもらえるか、田村さんに連絡しよう。★総合①③ 	<p>○指示「各班で出されたアイデアをみんなに紹介しよう」</p> <p>※ グループでまとめたものは、教室の壁面に掲示する。</p> <p>○発問「それぞれの班のアイデアを聞いて、〇〇の人たちにどのように働きかけていったらいいと思いますか」 【働き掛け2-③】</p>

(3) 評価

○ 「万代太鼓」に対する自分や専門家の思いと伝える相手の現状とを関連付け、適切な方法を判断することができたかを、発言と思考ツールの記述から評価する。